

調停悉く破る

罪は資本家の無誠意に在り

四下分りし数多争議の間には、幾度か調停あり現れたが、結果は悉く不成功に上った

十一月廿九日九月二十三日頃、岐阜知事調停に林河合甚則君の調停である

河合は正式労働會議調停に依り、調停委員会を組織し、六月三日間に決つて熱心に奔走した

労働組合側は委員会に附することと承諾し、委員を主として中島三名の委員も撰定された

然りと資本家側は、始りては調停に同意せず、準備、終會し用いたが、偶々、労働同盟委員も、調停案を承認するを望み、急に狼狽を極め、滋呂島労働組合の労働同盟との脱退するに非ざるは交渉、(中略)に終りし

非常熱極まり暴言を吐き解款し、(中略)に終りし

浦、努力は水泡に帰した

第二回は十月五日頃、笠原所長、退役陸軍少佐、川本氏が出馬した

然し、川本所長の出馬は、正に日西役目苦勞正とは標榜申上へきものであった

資本家側は、労働同盟との脱退するか、二價銀を割主分の値下りも承諾するか、二者孰れかを取れと迫った

労働組合側は、七ヶ條の要求条件と用意し、先席した、(中略)問題に力を入り、条件を示す迄もなく、席を蹴り起して仕事に就いた

川本所長は呆然として逃げやうに去つて仕舞った

第三回は十月十二日、滋呂島祭礼の前日、河内の有志十二名の尽力に依りて争がれた

労働側からは交渉の全部を委任された、(中略)各同盟主事がある